

機関番号：34419

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520601

研究課題名（和文） 台湾総督府地方長官・内海忠司関係文書による植民地官僚研究

研究課題名（英文） The research of colonial bureaucratic officials based on documents of Utumi Chuji, Prefectural governor of Taiwan

研究代表者

近藤 正己（KONDO MASAMI）

近畿大学・文芸学部・教授

研究者番号：70247956

研究成果の概要（和文）：

台湾総督府地方長官をつとめた内海忠司の日記・回想録・書簡などを翻刻し、植民地研究の重要な史料群の一翼に加えた。また、それを分析することによって、帝国日本の中核的な担い手たる高級官僚たち——その大半は内海忠司と同様に帝国大学を卒業し文官高等試験に合格した一握りの人物であった——は頻繁な異動を繰り返しながら、植民地統治にも関わり続け、植民地支配の最前線における現場の指揮官としての役割も担ったことがわかった。

研究成果の概要（英文）：

This course will provide essential historical documents relating to colonial studies by compiling diaries, memoirs, and various notes from Utsumi Chuji. Through the analysis of these documents, this course will establish that bureaucratic officials vital to the workings of the empire had all graduated from the Imperial University and passed high level civil service examinations, much like Utsumi Chuji himself. Through their various interactions, they not only maintained vital connection between the empire and its colonies, but also served as critical commanders on the frontiers of colonial rule.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：植民地、台湾、官僚

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 植民地研究の領域においては、岡本真希子『植民地官僚の政治史』（三元社、2008年）、松田利彦他編『日本の台湾・朝鮮支配と植民地官僚』（思文閣出版、2009年）など「植民地官僚」の研究が始まりをみせている。

(2) 日本植民地研究は韓国や台湾などでも急ピッチで進められている分野であるが、台湾では2000年度から、林献堂の『滄園先生日記』（中央研究院、現在第18巻が刊行中）、『水竹居主人日記』（中央研究院、現在第10巻が刊行中）など民族運動家や植民地統治下にあった人々の日記が発掘され刊行されている。

(3) 国内外における日本植民地研究の課題は、国際的学術研究の輪のなかで進められる前提づくりにあろう。そうした前提に立つには、信頼できる歴史史料による実証的研究という歴史学の原点にもどるほかはない。

## 2. 研究の目的

(1) 日本植民地研究の課題は、国際的学術研究の輪のなかで進められる前提づくりにあろう。そうした前提に立つには、信頼できる歴史史料による実証的研究という歴史学の原点にもどるほかはない。こうした認識のもとに、植民地期台湾の地方長官であった内海忠司（1884～1968年）が所蔵していた「内海忠司関係文書」のコアとなる資料を翻刻する。

(2) 「内海忠司関係文書」を読み解く作業のなかで、官僚としての業務、会議、巡視、接待などから日常的行為、思考、人的関係、それに家族まで、官僚の日常を再現することによって、植民地政策の形成過程から実施プロセス、そして官僚の目に映った植民地の実態を検証する。

## 3. 研究の方法

(1) 「内海忠司関係文書」の調査・撮影・目録作成にあたる。「内海忠司関係文書」の記録・保存は、カメラによる撮影、パソコンへの整理・分類、ナンバリングなどによって史料の散逸を防ぐとともに恒久的保存をはかる。

(2) 日記・回想録・書簡に登場する人名・地名を整理し、人名解説と人名索引、および地名索引、地図を作成する。写真を日記と照合しながら分析し、文字史料にない部分を補う。

(3) 内海忠司の行為・行動を役職ごとに整理し、政策の形成、施行などを総督政治のなかで分析し、官僚の果たした役割を役職ごとに明らかにしていく。

(4) 代表者・連携研究者・研究協力者が一堂に集まって討議や議論のために、年2回の研究会を開催し、分担作業によって得られた各自の知見を相互に検討する。

(5) 草稿的な論文を持ち寄り、学会に参加して、他の植民地研究者とも論議し、問題点を整理する。

#### 4. 研究成果

(1) 「内海忠司関係文書」は、日記だけでも 1910 年から 1968 年までの 58 冊におよび (1947 年は欠)、執務資料にいたっては担当執務していた政策の原稿、書類、メモ、関係地図、写真、それに政治家、軍人などとやりとりした書簡類などは膨大な量にのぼった。官僚としての職務や日々の生活までが詳細に記録されており、植民地統治政策の現場担当者としての私文書としてはきわめて貴重なもので、その史料価値は、きわめて高い。この「内海忠司関係文書」の恒久的保存をはかり、日本植民地史料として研究に耐えられるものにした。

(2) 内海忠司は京都帝国大学法科大学を卒業後、1913 年文官高等試験 (行政科) に合格し、山形県を皮切りに沖縄県などの高等官を歴任した。佐賀県において政党側との深い関わりを問題視されて休職に追い込まれると、1928 年から植民地・台湾へ渡り、台湾総督府の地方官として台北市警務部長、台南州内務部長、そして台北市尹、新竹州知事、高雄州知事にのぼりつめ、1939 年に退官している。退官後も、「南進」を進めた国策会社・南日本化学工業株式会社監査役に就任し、敗戦時まで植民地と関わりをもった人物であった。

(3) 内海の日記には文官・武官・民間人との面会の記録が詳細に記されており、その数は姓名と経歴をほぼ確定できる者に限定したとしても 1700 名あまりにのぼる。そこに見られる人的ネットワークは、議会なき植民地において「政治」がどのように行われたかを把握するための重要な手がかりであり、その分析を通じて植民地政策の

形成・施行の基幹部分を明らかにすることができた。

(4) 帝国日本の中核的な担い手たる高級官僚たちは頻繁な異動を繰り返したが、内海は 10 年以上継続して台湾統治に関わり続け、しかも総督府の本府ではなく地方庁に身を置くことにより、植民地支配の最前線における現場の指揮官としての役割を担った。

(5) 官僚やその家族もまた日本人植民者としての日常生活を送った。植民地における「日常生活」に関する分析は、数的には圧倒的に少数の外来者が支配民族として存在する植民地社会の特質を浮き彫りにした。

(6) 研究の成果は、2010 年 5 月 29 日に北海道大学で開催された日本台湾学会第 12 回学術大会において、「台湾総督府地方長官・内海忠司からみた植民地支配」をテーマとする分科会を設けて研究代表者・連携研究者・研究協力者が論文を発表した。

(7) また、研究の最終的成果は、平成 23 年度科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) の交付を受け、近藤正己・北村嘉恵・駒込武編著『内海忠司日記 1928～1945 年——帝国日本の官僚と植民地台湾』として京都大学学術出版会から刊行することになっている (2012 年 1 月刊行予定)。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 5 件)

①近藤正己「内海忠司と『内海忠司関係文書』紹介」日本台湾学会第12回学術大会、第2分科会「台湾総督府地方長官・内海忠司からみた植民地支配」(於北海道大学、2010年5月29日)

②近藤正己「高雄州における内海忠司の地方政策と軍」日本台湾学会第12回学術大会、第2分科会「台湾総督府地方長官・内海忠司からみた植民地支配」(於北海道大学、2010年5月29日)

③駒込武「在台日本人ネットワークのなかの内海忠司」日本台湾学会第12回学術大会、第2分科会「台湾総督府地方長官・内海忠司からみた植民地支配」(於北海道大学、2010年5月29日)

④北村嘉恵「内海忠司日記を通じて見る台湾総督府地方長官の活動と人的つながり」日本台湾学会第12回学術大会、第2分科会「台湾総督府地方長官・内海忠司からみた植民地支配」(於北海道大学、2010年5月29日)

⑤蔡慧玉「在台植民地官僚の日々…内海忠司の日記を読む」日本台湾学会第12回学術大会、第2分科会「台湾総督府地方長官・内海忠司からみた植民地支配」(於北海道大学、2010年5月29日)

〔図書〕(計1件)

①近藤正己・北村嘉恵・駒込武  
『内海忠司日記 1928～1945年——帝国日本の官僚と植民地台湾』

(京都大学学術出版会、2012年1月刊行予定、816ページ、平成23年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)交付)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

近藤 正己 (KONDO MASAMI)

近畿大学・文芸学部・教授

研究者番号：70247956

### (2)研究分担者

### (3)連携研究者

駒込 武 (KOMAGOME TAKESHI)

京都大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：80221977

北村 嘉恵 (KITAMURA KAE)

北海道大学・大学院教育学研究員・准教授

研究者番号：20322779